

アクセルソン博士講演会 参加者インタビュー /
東京オペラシティ歯科(東京都) 前編

「PMTCもセルフケアも、 中心はリスク部位」

アクセルソン博士から、ありがたい “パンチ”をもらいました

5月の終わりに開催されたアクセルソン博士の講演会。東京オペラシティ歯科からは、歯科衛生士のヒイ真希さん、桜井まいさん、高田彩さんの3人が参加しました。予防の父・アクセルソン博士から直接メッセージを受け取ることの出来る、またとない機会。何に驚き、どんな気づきを得たのか。そして、その後の取り組みにどう活かしているのか。行動力ある3人へのインタビューを、2回にわたってお届けします。



ヒイ真希さん
DH歴 11年



高田彩さん
DH歴 2年



桜井まいさん
DH歴 6年

「リスク部位からPMTCを
行なっていますか？」
博士の質問にドキッ！

ヒイ：すごかったですね、アクセルソン博士のパワー！長時間立ちっぱなしで、たくさんスライドを一枚一枚丁寧に説明してくれました。博士の自信や熱い気持ちがあすく伝わってきて、私たちが前のめり(笑)。博士の生の言葉を聞き逃さないよう、集中していましたよ。

高田：私は歯科衛生士になつてすぐ、先輩2人からすすめられて書籍「本当のPMTC」を読みました。国家試験の勉強で教科書どおり覚えたことについて「なんでそうなのか」という理由がわかり、すごく納得できたのを覚えています。今回直接お話を聞いて、博士の研究のすごさを再確認！この先、博士のいう予防方法を実践して患者さんの歯を守っていきこう、という想いが強くなりました。

ヒイ：特にキーリスクに応じたケアのお話、レインコートの例えは印象的でしたね。患者さんを「病気になる前に歯科医院に通う」という意識に変えていくために、自分たちの核

になるような“パンチ”を期待して参加していたんです。まさにそのパンチをいただけました。

桜井：そうですね。博士が「リスク部位からPMTCを行なっている人はどのくらいいますか？」と質問したときは、正直ドキッしました。リスク部位を見極める大切さはわかってはいたけれど、それを患者さんに明確に伝えることや、ケアを重点的に行なうことまではできていなかった。今まで診てきた患者さんに対する罪悪感を感じて、強く心に残りました。

見えるところではなく、
見えないところにこそ意識を向ける

ヒイ：たとえばPMTCがどうして必要なのかを患者さんに話すとき。今までを振り返ると、「ご自分で落とせない汚れをきちんと落とせますよ」という漠然とした言葉になっていました。誰にでも同じフレーズで。そうではなくて、「あなたはここにリスク部位があるから必要なんですよ」と伝えるべき。博士のお話を聞いてそう確信してから、「あなたの場合

は」のニュアンスを必ず盛り込んでいます。

桜井：私も同じです。染め出しをしてTBIをするのですが、「歯が重なっているところはワンタフトブラシで」とか「奥歯は磨きにくいので気をつけましょう」という一般論になっていたんです。患者さんの歯磨きの仕方がなかなか改善しない原因は、その伝え方にあったんだと気づかされました。

高田：考えてみれば、リスク部位って患者さんには見えていないし、ブラークが残っている気づいていないところ。だからこそ「リスク部位」と呼ばれるんですね。見えるところにはかり向いていた自分の意識を、臼歯部や舌側などの見えないところに向けるきっかけになりました。

桜井：セルフケアの提案をするときも、PMTCを行なうときも、すべての中心は「リスク部位」！自分たちの方向性がピシッと決まったら、患者さんに伝える言葉も変わってきました。そうしたら、自然と患者さんの反応も変わってきました。アクセルソン博士の講演会から3ヶ月がたつたう、手ごたえを感じています。

お楽しみに!

1人ひとりのリスク部位にケアの焦点を当てる大切さに気づいた3人。この一つの気づきがいろいろな取り組みに広がり、活かされています。後編ではその具体的なエピソードをお伝えします。